



目指すもの

- ・学生のグローバルリーダーシップの育成
- ・サステイナブルテクノロジー開発を目指す技術者の増加

その「背景」

- ・持続可能な開発のための目標（SDGs）（2015国連採択）
- ・再生可能エネルギーへの転換（福島県の方針）

この両者をつなぐため、SDGsの理解増進を図るグローバルリーダーを育成する必要がある。

「今、国際社会から求められているもの」

- ・サステイナブルテクノロジー開発を目指す技術者の育成

工程表

サステイナブルテクノロジー開発の土台作り



学生主体のプロジェクト実施をととしたリーダーシップ育成

	2018年4月～8月	2018年9月～12月	2019年1月～3月
ESD特別講義、通常授業でのESD実践、ESD教材＊開発	通常授業でのESD導入、ESD教材＊開発開始 提携機関との特別講義調整	提携機関の講師による特別講義実施、ESD教材＊開発の継続	H30年度のESD実践、ESD教材＊開発の成果をまとめる
学生によるSDGsの地域普及アクション	いわき市、いわきアカデミアコンソーシアムとの調整、学生のPBLのための場所を準備	学生による、小中学生を対象としたSDGs普及アクション	サステイナブルスクールとしての活動振り返りと成果報告書作成
SDGsをテーマとした国際学会開催への学生の巻き込み、国際廃炉創造ロボコン実施	国際カンファレンス第6回Regional Conference on Campus Sustainability(6 th)	提携機関によるファシリテーション能力、グローバルリーダーシップ養成講座 カンファレンス実施に向けた具体的準備	第6回Regional Conference on Campus Sustainability(6 th RCCS) 実施
活動成果：国内外のSDGs関連学会発表	海外のSD学会の視察、ISTS・JSTSへ参加	学生の発表準備支援と国内SD学会での発表、ISTS・JSTSへ参加	第6回Regional Conference on Campus Sustainability(6 th RCCS)で発表

事業実施体制

学内組織/評価組織	連携機関
(学内組織) ・高専4.0実施ワーキンググループ ・学生イベント運営委員会 ・(各イベント毎、必要に応じて募集、設置) ・廃止措置・人材育成推進室 ・サステイナブルスクール運営委員会 (評価組織) ・評価改善委員会 ・参与会	・福島再生可能エネルギー研究所 ・日本ESD学会 ・日本原子力研究開発機構 ・いわきアカデミアコンソーシアム推進協議会 ・CAS-Net JAPAN ・東日本国際大学 ・シリコンバレー・ジャパンユニバーシティ ・一般社団法人 ・FROM PROJECT

成果指標(H30)

※ESD教材とは、高専教育や初等中等教育で使用できるサステイナブルテクノロジー理解増進のためのESD関連教材である。

成果指標①

- ・本校での国際学会・イベント主催：1件（H29）→2件以上
- ・ファシリテーション能力、グローバルリーダーシップ養成講座(H29)1件→8件以上
- ・学生の国際学会での英語での発表：（H29）3人→10人以上

成果指標②

- ・FREA、東日本国際大学、日本ESD学会からの特別講義：（H29）3件→4件以上
- ・学生の地域小中学校を対象としたSDGs普及活動（H29）1件→6件以上

【第4期中期目標期間への展開（見込み）】

ESD実践教育をホールスクールで行い、また学生の実践活動（PBL型教育）の一環として、公開講座を地域で開催する。地域にSDGsを浸透させ、同時に本校のESDの取り組みについて小中学生や保護者に広く知ってもらう。さらに学生を巻き込み国際会議やイベントを運営し、多文化の中でプロジェクトを遂行する力を実践的に養う。課題発見能力や国際的な協働作業を遂行できる力、サステイナブルな技術イノベーションを追求する人材育成を誘引する。